

AIの未来に人類の新たな危険をとなる懸念はないか

2023-4-8

野口幹夫

KOZOOM サロン 28 の 3 月集会で清水さんが提起してくださったこのテーマのおかげで、AI についての学習ができた。このような機会を戴けなかったら、上滑りの感想しか持てなかったと思うので感謝したい。

この学習で私の結論は極めて楽観的なもので、AI は人間生活に強力な助っ人の一つとして働いてくれることを期待すれこそ、恐ろしい存在ではないと見極めた。

次の順で簡単に述べたい

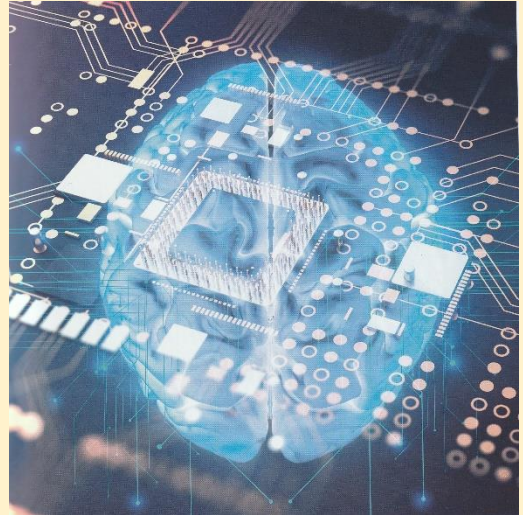
- 1、 AI の本質と限界
- 2、 AI に対する批判と懸念
- 3、 それに対する私の意見
- 4、 総論的結論



1、 AI の本質と限界

人間の頭脳活動の特定した一部をコンピュータ上でシミュレーションさせ猛スピードで演算処理する技術と、情報ネットワークで蓄積できた膨大な特定の記憶情報を組み合わせた技術である。そのスピードとベースになる記憶情報量は人間の脳の能力をはるかに超える。

この特性を生かすことのできる囲碁やチェスなどのボードゲームの AI は 人間の最高の実力を越えた。医療の世界の画像診断、など画像加工に関する業務は力が発揮できる。



文章例の膨大な蓄積とメール応答の分析をベースにしたチャット DPT はリクエストに答えた文章を人間以上に巧みに作ってくれる。

自動運転や、給仕ロボットのように、人間の動作をシミュレートする AI は、不得意である。

AI のシミュレートするのが頭脳のなかで電気信号として扱える範囲であって、それがつながっていく身体神経ネットワークは、多数のホルモンの生成伝達のような電気信号に置換できない複雑な構成をしているので、AI は歯が立たない。

更に言えば「精神」は、電子を究極の素子とする身体頭脳の構成のなかには無いので、目下の人間科学では扱えない実在である。科学がダークマターダークエネルギーの領域が扱えるようになる時まで、未知の存在であり続け、当然ながら AI の電気信号処理では扱えない。これらが AI の限界である。

2, AI に対する批判と懸念

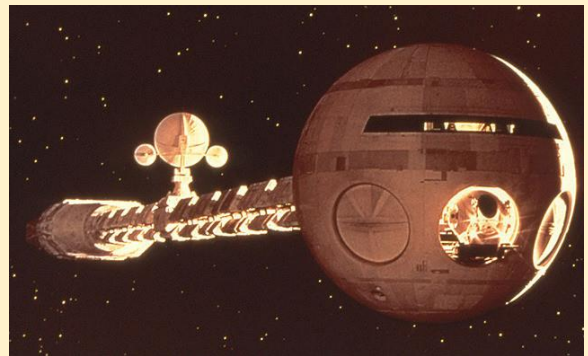
その一つが最近流行し始めたチャット GPT をイタリア政府が禁止した事情が指摘しているように、チャット GPT は、情報ネットワーク上で得られる膨大なデータがベースになるが、

個人情報の保護についての配慮はなく、またそれが GAF A のような巨大独占企業の独占するネットワークの上に成り立っている。それらは究極の目的は私利であり、利益追求であることに対する懸念と批判がある。

また空想的な懸念は 1968 年に制作された映画

「2001 年宇宙の旅」のなかの AI コンピュータ HAL を思い出される方もおありでしょう。

IBM の 1 字先をもじった HAL は宇宙船の中で



人間に反逆し殺人を実行する恐ろしいスーパーコンピュータだ。この HAL のように自分で学習を続ける AI はいつか人間を支配する存在になるのでないかという空想的懸念が、この映画つくられた 1968 年ころから「AI」の存在に付きまどっていたのである。

3、それに対する私の意見

人知全体に影響を与えるチャット GPT のような巨大 AI が私的企業で生み出され運営されることに対する批判は当たっていないと考える、逆にそれが政府のような権力機関でなされるとそれが民主主義国であろうとも、独裁国家ならなお危険だ。民間企業でなされるなら、むろん営利目的が基本にあっても、民衆の支持利用がなければ成り立たないからだ。

SF 映画に登場した人間を支配する HAL は、過大評価だ。AI は人間の身体すらシミュレートできない。特定の動作はできても人間全体をカバーすることはできない。

むしろ AI に限らず、すべての技術開発は人間に害するようにも使用できる。坑道を作ったダイナマイトが爆弾になるようにだ。しかしそれは技術に責任はない、人間が問題なのだ。AI もこれまでのすべての優れた技術と同じである。悪用すればパワフルだ。しかし人間社会はそれを克服できる知恵を持っている。

4, 総論的結論

上に述べてきたように AI はこれまで人間が成し遂げてきた優れた技術開発の一つに過ぎない。魅力的でありパワフルである。そして問題は AI 自体にはなく、それに向かう人間にある。悪用をしようとする人間だけの話ではない。むしろ悪用を試みる彼らを抑えるには。社会の新しい仕組みも必要だろうし、これまでにない仕掛けも作る必要があるのであろう、時間がかかってもそれを人間社会は成し遂げるだろう。それは心配していない。

人間全体がこの AI をいかに賢明に使いこなしていくかが問われている。

これから教育を受ける新世代への影響は大きい。AI に囲まれてそれが当たり前となる教育を受ける。我々が想像できないほどパワフルな世代となるだろう。囲碁や将棋の世界でその異変は目に見えている。10歳でプロ入りした仲邑 堃ちゃんの出現に驚いたらその後も続々 AI 囲碁児が出てきた。

特出児が生まれるだけではない。教育の世界で問題児やできない子供への配慮手助けも AI の道具があればその格差は解決できそうだ。

問題はデジタル化に弱い我々高齢者だ。もっぱら受け身でその影響を享受する。不安や心配

事が起きた時も、親切に相談に乗ってくれる AI がそばにいてくれ、甘やかしてくれる未来がすぐそこだ。面倒な手紙も代筆してくれる。買い物も歩くことなく自宅の庭に届く。老人天国だ。だからといってますますボーと暮らす老人が増える社会となっはいけない。我々も AI を見つめ、その応用に批判的に対処し、人間らしい人間社会とは何かを、賢明に生き抜く中で示したい。

参考にした文献

別冊ニュートン ゼロからわかる人工知能

基本的な仕組み 2020-3-5

完全版 2022-2-6

おうちで学べる人工知能のきほん 東中竜一郎著 翔泳社 2017-11-13

AI には何ができないか メレディス・ブルサード 北村京子訳 作品社 2019-8-10

以下は毎日新聞ニュースなど

ChatGPT、何が問題か 元グーグル社員「非常に無責任で無謀」インタビュー記事
話題の「ChatGPT」をやってみた＝高橋源一郎